



學 穂

(ほがく)

令和 8 年度 広州日本人学校

学校だより No.6

令和 8 年 8 月 18 日

発行責任者 校長 大久 耕

「そうぞう力（想像力・創造力）」を働かせて ～2 学期始業式にあたって～



本日より、第 2 学期が開始となりました。この夏は、広州も日本も、世界的に気温が高い夏となりました。各ご家庭でいかがお過ごしでしたでしょうか。幸いなことに、大きな事故やけがの報告もなく、子供たちが元気に登校してくれたことをうれしく思っています。

2 学期は、16 名の編入学があり、327 名でのスタートとなります。

始業式の冒頭に、小学部 2 年生、5 年生、中学 1 年生の 3 名の代表児童が、1 学期の振り返りを踏まえて、2 学期の目標や抱負を発表しました。いずれも具体的な目標と挑戦への意欲に満ちたすばらしいものでした。

校長からは、一人一人が目標を実現するために、そして全員にとってすてきな広州日本人学校にしていくために必要な二つの「そうぞう力」について話をいたしました。

一つ目は、「自分の成長した姿を思い描く力」、「協力し合うための方法を考えることのできる力」、「自分だけではなく、相手がどうしてほしいかを考えられる力」としての「想像力」です。

自分の目標達成には、何が必要なのか、何が足りていて、何が足りていないのかをしっかりと見極めることが大切です。そのうえで、自分の力で進められるところ、他人の力を借りるところを考え、達成までの道筋をしっかりともってほしいと思っています。

また、「想像力」は優しさにもつながります。友達と接するときには、独りよがりの思いではなく、友だちの気持ちに寄り添い、何をしてほしいと思っているかを考えることで、自分がすべきことが分かってきます。ときには何もせず温かく見守ることも大切であり、支援になるということも加えて話をしました。



二つ目は、「自ら物事を創り上げる力」、「達成する力」としての「創造力」です。

どんなになりたい自分を想像しても、そこに近づけるように努力を続けなければ意味がありません。失敗が続くこともあるかもしれませんが、でも、あきらめず、まずは自分を、そして友達や家族、先生方を信じて取り組みを続けてほしい、「創造力」には、努力と諦めない心が必要だと話をしました。

低学年の子供たちには、全体が易しく理解できるように変身する 4 匹のカエルの姿（「間違える」→「振り返る」→「考える」→「見違える」）として、話をしています。

今日から始まる 2 学期の生活では、考える力である「想像力」と物事を実現する力である「創造力」を発揮して、「マチガエル」→「フリカエル」→「カンガエル」を繰り返しながら、「ミチガエル（目標とする姿）」になってほしいと思います。



フリー素材を使用しています